

# 基礎体の非分離拡大に対する特異点の振る舞いについて. (佐藤・九州大)

## §1 Introduction

代数幾何	$\bar{k} = \bar{k}$	}	完全体
数論	代数体 $\mathbb{Q}, \mathbb{F}_p, \overline{\mathbb{F}}_p$		
表現論	$\bar{k} = \bar{k}$		
暗号理論	$\mathbb{Q}, \mathbb{F}_p, \overline{\mathbb{F}}_p$		

### Question

$b, c \in \mathbb{C}$  として,  $f_{b,c}(x) = x^2 + bx + c$  とする.

$f_{b,c}(x) = 0$  の解の個数はいくつ?

### Answer

- ①  $b, c$  に依存している. つまり  $b^2 \neq 4c$  なら 2コ,  $\underline{b^2 = 4c}$  なら 1コ.
- ② general な  $b, c$  で 2コ. (general) (special)

### Remark

$R_{b,c} := \mathbb{C}[x]/(f_{b,c})$  とおく.

このとき,

$R_{b,c}$  : regular  $\Leftrightarrow f_{b,c} = 0$  の解は 2コ.

つまり ②の言いかえは, general な  $b, c$  で  $R_{b,c}$  は regular. □

### Setting

- $\bar{k} = \bar{k}$
- $f_1, \dots, f_e \in \bar{k}[x_1, \dots, x_m, t_1, \dots, t_n] : m+n$  変数多項式環.
- $R := \bar{k}[x_1, \dots, x_m, t_1, \dots, t_n]/(f_1, \dots, f_e)$
- $a_1 := (a_1, a_2, \dots, a_n) \in \bar{k}^n$  に対して  
 $f_{i,a_1} := f(x_1, \dots, x_n, a_1, \dots, a_n) \in \bar{k}[x_1, \dots, x_n]$

とおく,

$R_{a_1} := \bar{k}[x_1, \dots, x_n]/(f_{1,a_1}, \dots, f_{e,a_1})$ .

例

$$f(x, t_1, t_2) := x^2 + t_1 x + t_2 x \text{ とすれば, } R_{b,c} = R_{(b,c)}.$$

Philosophy 1

Setting の状況で

 $\exists U \subseteq \mathbb{P}^n$ : Zariski-dense

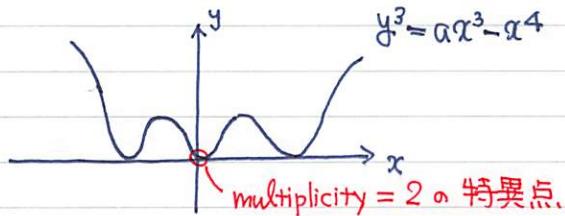
- (s.t.) ①  $\forall a_1, b_1 \in U$  に対して,  $R_{a_1}, R_{b_1}$  は同じくらい性質が良い.  
 ②  $\forall a_1 \in U, \forall b_1 \notin U$  に対して,  $R_{a_1}$  は  $R_{b_1}$  より性質が良い.

例

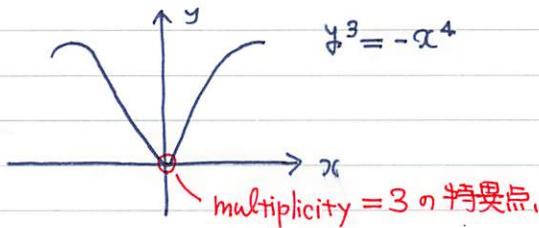
$$R_a := \mathbb{C}[x, y] / (ax^3 - x^4 - y^3) \quad (a \in \mathbb{C})$$

$$U := \mathbb{C} \setminus \{0\}$$

- ①
- $a \in U$
- ならば,
- $R_a$
- は



- ②
- $a \notin U$
- ならば,
- $R_a$
- は

Problem 1

$\{R_a\}_{a \in \mathbb{P}^n}$  が与えられたとき, general member の性質がどのくらい良いのかを調べるにはどうすれば良いか?

この難しさは、どの  $a_i \in \mathbb{F}$  が general member なのか わからないところにある。  
これを解決するには、"generic member" & "geometric generic member" を調べよう。

### Definition

$\{R_{a_i}\}_{a_i \in \mathbb{F}}$  を考える。

$K := \mathbb{F}(t_1, \dots, t_n)$  を  $n$  変数有理関数体

このとき、各  $f_i$  は  $f_i \in K[x_1, \dots, x_m] \subseteq \bar{K}[x_1, \dots, x_m]$  であるので、

$$R_K := K[x_1, \dots, x_m] / (f_1, \dots, f_e), \quad R_{\bar{K}} := \bar{K}[x_1, \dots, x_m] / (f_1, \dots, f_e)$$

と定める。  $R_K$  を generic member,  $R_{\bar{K}}$  を geometric generic member という。

### Philosophy 2.

"generic member  $R_K$  の性質"  $\doteq$  "geometric generic member"  $\cdot R_{\bar{K}}$  の性質" .

①  $R_{\bar{K}}$  の性質を調べるには？

①  $R_K$  を調べる。

②  $R_K$  と  $R_{\bar{K}} = R_K \otimes_K \bar{K}$  を比較する。

(これが今日のメイン.)

### Additional Setting

- $K$ : field (e.g.  $K = \mathbb{F}(t_1, \dots, t_n)$ )

- $A$ : fin. gen.  $K$ -alg. (e.g.  $A = R_K$ )

- $\bar{A} := A \otimes_K \bar{K}$ .

### Problem 2

$A$  が良い性質をもつ  $\xrightarrow{?}$   $\bar{A}$  が良い性質をもつ。

～～  $K$  : 完全体 なら Yes.

$K$  : 不完全体 なら No.

$$\begin{array}{l} (\Leftrightarrow) \\ \text{def} \end{array} \quad \begin{aligned} \text{char}(K) = p \text{ かつ } \exists a \in K \text{ (s.t.) } \sqrt[p]{a} \notin K \\ (\text{e.g.}) \quad K = \mathbb{F}_p(t_1, \dots, t_n) : \text{不完全.} \end{aligned}$$

では、 $K$ が不完全として、(Prob2) を成立させるには、どのような仮定を課せば良いか？

### 例

$K$  : 不完全

①  $A$  : regular  $\nRightarrow \bar{A}$  : regular.

②  $m \in \max(A)$  で  $K \subset A/m$  が separable とする。

このとき、 $A$  を  $m$  の周辺に十分局所化すると

$A$  : regular  $\Rightarrow \bar{A}$  : regular.

### §2 Main results.

§1 では “良好性質” = “regular” を例にあげた.

§2 では “良好性質” = “klt” を考える.

### Definition

$X$  :  $k$  上の normal variety.

- $f: Y \rightarrow X$  :  $X$  の (log) 特異点解消  $\leftarrow$  (この仮定は、  
char = 0 or toric or dim  $\leq 3$   
とする)
- Canonical divisor  $K_X$  が (Q-Cartier  
 $(\Omega_{X/k}^{\dim X})^{**}$  に対応する divisor)

このとき、 $X$  が 高々 klt 特異点しか持たない.

$\Leftrightarrow$   $Y$  上 定義される  $\mathbb{Q}$ -divisor  $K_Y - f^*K_X$  の全ての係数が  $-1$  より大きい。  
def

‘気持ちとしては、



klt ...  $K_X$  が  $K_Y$  に比べてどんなに小さくない  
つまり、 $X$  と  $Y$  に どんなに差がない.

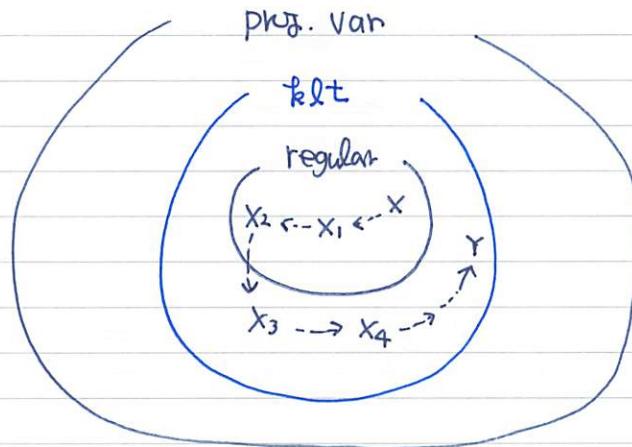
Fact

- ① regular  $\Rightarrow$  klt.
- ②  $\dim = 1 \Rightarrow$  regular  $\Rightarrow$  klt.
- ③  $\dim = 2, \mathbb{K} = \mathbb{C} \Rightarrow$  "klt" と商特異点は同値.
- ④ MMP で大切.  
(minimal model program)

---- Input:  $X$  : proj. var

Output:  $Y$  : proj. var であって,  $X \xrightarrow{\text{birational}} Y$  &  $Y$  : minimal

このとき,  $X$  が regular でも  $Y$  が regular とは限らない.  
しかし, 高々 klt になっている.

Theorem A

$A : K$  上有限生成な normal domain で  $\text{char}(K) > 3$  とする.  $\dim(A) = 2$  とする.  
 $m \in \max(A)$  とする. この  $m$  について,  $A/m$  は  $K$  上分離的とする.

$\bar{A}$  が normal で  $A$  が klt であるとする.

このとき,  $A \otimes m$  の十分周延で局所化すると,  $\bar{A}$  は klt である.

$\text{spec}(A)$  が klt

$\hookrightarrow$   
 $\text{spec}(\bar{A})$  が klt.

Corollary B. [Bertini type theorem]

$X$ : quasi-projective var /  $\mathbb{k} = \bar{\mathbb{k}}$ ,  $\text{char}(\mathbb{k}) > 3$  &  $\dim = 3$ .  
 $(\rightsquigarrow \exists N \in \mathbb{N} \text{ s.t. } X \subseteq \mathbb{P}^N)$

$X$ : fkt &  $H \subseteq \mathbb{P}^N_{\mathbb{k}}$ : general hyperplane  $\rightsquigarrow X \cap H$ : fkt.

(Sketch of proof)

$X$ : affine  $\rightsquigarrow X = \text{Spec}(S) \subseteq \mathbb{A}_{\mathbb{k}}^N$

$S = \mathbb{k}[x_1, \dots, x_N]/(f_1, \dots, f_e)$ ,  $H = \text{Spec}(\mathbb{k}[x_1, \dots, x_N]/(a_1x_1 + \dots + a_Nx_N))$

このとき,

$$X \cap H = \text{Spec}(\mathbb{k}[x_1, \dots, x_N]/(f_1, \dots, f_e, h))$$

$a = (a_1, \dots, a_N) \in \mathbb{k}^N$  として,

$$R_{a_1} := \mathbb{k}[x_1, \dots, x_N]/(f_1, \dots, f_e, h)$$

とおく.

ETS: general なので,  $R_{a_1}$ : fkt を示す.

その為に geometric generic member をみればよい.

$S$  は 3 次元であり,  $X$  は fkt なので,  $R_k := \mathbb{k}[x_1, \dots, x_N]/(f_1, \dots, f_e, t_1x_1 + \dots + t_Nx_N)$  も fkt となる.

これは 2 次元なので, 定理より  $R_{\bar{k}}$  も fkt である.

よって general な  $R_{a_1}$  で fkt である. □